

# 検討の方向性 (バイオエタノールの導入拡大に係る危険物規制)

---

消防庁危険物保安室



## 海外調査の中間報告

➤ 現時点における調査結果をもとに、課題点となり得るポイントについてまとめた。

### ①部材の適合性（地下タンク、配管、固定給油設備のホース等）

・ 諸外国では、地下タンクの設置は**二重殻タンクが前提**となっている。バイオエタノールの導入時に既設の直接埋設された鋼製一重殻タンク（**一重殻タンク**）の使用を**全面的に禁止**しているわけではない。また、既設のタンクを**コーティング**する場合は、**耐性が認証**された材料を用いることとされている。**配管やホース等**も同様に**認証品に限定**されている。

（参考）日本においても、地下タンクの設置は**二重殻タンクが前提**となっているが、**一重殻タンクも一定数存在**しており、設置条件に応じて**コーティング等の流出防止対策**を講ずることとされている。また、**配管、ホース等**についても、**容易に劣化しないこと等の基準**が設けられている。

### ②漏えい時の対策

・ 諸外国では、バイオエタノールの導入時に、**漏えい対策の強化は行っていない**。

（参考）日本においては、バイオエタノール導入時に、**油分離槽に加えて収容設備の設置※を義務付けている**。  
※一定量以上を収容できる油分離装置を設けた場合は、収容設備等の設置を要しない（平成 24 年消防危第 2 号）

### ③消火設備の有効性

・ 諸外国においては、バイオエタノールへの対応として主に**粉末消火器を設置**している。  
・ また、フランスについては、無人SS等に**泡消火設備を設置**している。

（参考）日本においても、粉末消火器の設置が一般的である。また、セルフSSにおいては、消火器に加え、**泡消火設備を設置**している。

### ④誤給油への対策

・ 諸外国では、**統一ラベルの表示が義務化**されている。

（参考）日本では、セルフSSにおいて**品目の表示と彩色の指定**が義務付けている。



諸外国の消火設備



諸外国の誤給油対策



日本の誤給油対策